



## りすい ちすい 利水と治水はどうちがうの

みず りよう りすい こうずい ふせ ちすい  
水を利用する利水と、洪水などを防ぐ治水

「利水」とは、川の水をうまく利用することをいいます。

「治水」とは、堤防やダムを築いて、洪水を防いだり、川の水を利用しやすくしたりすることをいいます。

わたしたち人類は、川からたくさんのめぐみを受けてきました。しかし、川は、ときどき洪水を起こし、わたしたち人類に大きな被害をあたえてきました。そのため、多くの国で、洪水を防ぐことを目的とした、治水工事が続けられてきました。川の工事というと、治水工事が中心でした。

最近では、産業の発達で、水が大量に使われるようになり、水の高度な利用が行われています。

かせん せい もの てんか せい  
「河川を制する者は、天下を制す」

中国では、黄河や長江など大きな川が多く、昔から人々の生活や経済に大きな影響をあたえてきました。特に、黄河は、しばしばはんらんして大きな水害を起こしたので、黄河の治水に成功することは、当時の皇帝たちにとって、最も重要な政治課題でした。そのため、「河川を制する者は、天下を制す」といわれたのです。（監修・保岡 孝之）

